

創刊のあじろ

高木宏夫

takagi hito

井上円了記念学術センターは、数多い全国の大学中唯一の学校法人立の研究所である。このセンターは突然生まれたのではなく、二つの前史がある。創立者の研究と百年史の編纂である。前者の創立者の研究については、昭和五三年にはじまる各学部の教員を主として構成された「井上円了研究会」（三つの部会があった）の研究が六一年三月に終わり、「井上円了選集編集等委員会」がこの仕事の一部と研究を継承した。また、後者の百年史の編纂については、東洋大学創立一〇〇周年事業委員会が五四年に、さらに東洋大学百年史編纂委員会が五七年に作られ、六三年に大部分の事業を終わって委員会は解散したが、年史の作成は「年史編纂室」に引き継がれた。そして、センターはこれらを基本的に継承した。

このような歴史と背景に加えて、「法人立のもつ意味」と本学の独自性を具現するために、平成二年四月にセンターが設立され、研究部門の他に事業部門も新設された。研究がはじまって一年しか経っていないので、本誌の中間報告の域を出ていないものについては年間の報告として了承されたい。

なお、このセンターは塩川正十郎理事長をはじめとして多くの方々の熱意によって生まれた。前例のない研究機関を育て発展させるために、関係各位のさらに強い協力をお願いしたい。